

地球システム科学は限りある地球を有効に利用して人類の持続的発展を達成させるために必要不可欠な学問分野である。従って関連科学技術の推進は各方面から強く要請されており、喫緊に解決せねばならない課題も多い。

当研究所は関連科学技術のうち、特に、資源・エネルギー開発、社会基盤整備、地下水、防災、環境保全などの分野に重点をおき、研究開発と研究成果の実際への有効利用を速やかに推進するために、継続事業（公益事業）である自主研究及び研究会等開催事業と産業界からの要請に応じて関連科学技術に関する課題の研究開発及び技術開発等を行う研究等受託事業を積極的に実施し、多くの有益な成果を挙げ、我が国の科学技術の発展に貢献してきた。

平成26年度には、地球システム工学の基幹分野である地質工学・探査工学・地盤工学・岩盤工学・防災工学などに関する基礎的及び応用的研究が活発に行なわれ、多くの有益な成果が得られた。これらの研究成果等を踏まえ、地球システム工学に関する研究成果の普及とその有効利用を促進するために、特別講演会を1回、研究会を3回主催すると共に、平成26年8月26日～27日にタイ国バンコック市でタイ王立工学会(Engineering Institute of Thailand)と連携して開催された「EIT-JSCE Joint International Symposium on International Human Resource Development for Disaster-Resilient Countries 2014」を後援した。また、当研究所のホームページ (<http://www.geosystem-research.com/>) を充実させて関連科学技術の普及に尽力した。

以下に平成26年度の活動状況を示す。

[1] 理事会、評議員会

「平成26年度 第1回定例理事会」

平成26年6月13日（金）、16：30～17：00、 京都大学楽友会館 会議室（6）

出席理事：青木謙治（代表理事）、大津宏康、大西有三、松岡俊文（以上4名）

欠席理事：浦山 克（以上1名）

出席監事：石川浩次、吉田庄太（全員）

相談役：佐々宏一、事務局：安川郁夫（主事）

「平成26年度 定例評議員会」

平成26年6月27日（金）、16：30～18：00、 京都大学楽友会館 会議室（6）

出席評議員：大友 譲、西山 哲、藤村健司、山田泰広（以上4名）

欠席評議員：木方建造（以上1名）

出席理事：青木謙治（代表理事） 以上1名

出席監事：石川浩次 以上1名

欠席監事：吉田庄太 以上1名

相談役：佐々宏一、事務局：安川郁夫（主事）

「平成26年度 第1回臨時理事会」

平成26年6月27日（金）、18：00～18：30、 京都大学楽友会館 会議室（6）

出席理事：青木謙治（代表理事）、大西有三、松岡俊文、浦山 克（以上4名）

欠席理事：大津宏康（以上1名）
出席監事：石川浩次、吉田庄太（以上2名）
相談役：佐々宏一、事務局：安川郁夫（主事）

「平成26年度第2回定例理事会」

平成27年3月27日（金）、15:00～16:30、京都大学楽友会館 会議室（6）
出席理事：青木謙治（代表理事）、浦山 克、大津宏康、大西有三、松岡俊文（全員）
出席監事：石川浩次、吉田庄太
相談役：佐々宏一、事務局：安川郁夫（主事）

【2】 部門研究会活動

現在、当財団法人内には次に示す10部門研究会が設置されており、それぞれの部門研究会が公益的な自主研究活動及び受託研究活動を活発に実施するとともに講演会および研究会を開催している。

- 1) 地球統計学研究会
- 2) 岩盤工学研究会
- 3) 写真計測研究会、
- 4) 京都地盤研究会
- 5) 岩盤水理研究会
- 6) ジオリスク研究会、
- 7) 東南アジア岩盤研究会
- 8) 地下可視化研究会
- 9) 地下水工学研究会、
- 10) 不連続性岩盤解析実用化研究会

【3】 事業

1. 自主研究及び研究会等開催事業（継続事業）

1) 自主研究事業

下記の題目の自主研究を実施し、多くの有益な研究成果が得られ、関連科学技術の発展に大きく寄与した。

- ① 震災復興計画のうち新エネルギー開発に関する研究
- ② 岩盤斜面の安定性評価における精密写真測量およびレーザースキャナデータの利用に関する研究
- ③ タイにおける岩盤風化斜面での降雨に起因する浅層崩壊の発生機構に関する研究
- ④ デジタル画像を用いたひび割れ幅計測システムの研究
- ⑤ 地下可視化に関する研究
- ⑥ 不連続性岩盤へのグラウト注入のモデル化および各種注入工法の有用性の検証
- ⑦ 地下水利用における地下水の温度および水質変化に関する研究

2) 研究会等開催事業

部門研究会が中心となって下記の講演会及び研究会を合計4回開催し、最近の関連科学技術の現状と発展に関し有意義な研究・討論を行った。

① 京都地盤研究会 第19回 特別講演会

日時：平成26年5月9日（金） 午後3時～5時

場所：京都大学楽友会館 2F 講堂、参加者数：72名

② 京都地盤研究会 第55回 研究会

日時：平成26年7月23日（水） 午後1時30分～5時10分

場所：京都大学楽友会館 2F 講堂、 参加者：96名

③ 京都地盤研究会 第56回研究会

日時：平成26年10月28日（火） 午後1時30分～5時10分

場所：京都大学楽友会館 2F 講堂、 参加者：96名

④ 京都地盤研究会 第57回研究会

日時：平成27年1月28日（水） 午後1時30分～5時20分

場所：京都大学楽友会館 2F 講堂、 参加者：70名

2. 調査・研究等受託事業（その他事業）

下記の14件の調査・研究を受託し、活発な公益的研究を実施し、多くの有益な成果が得られた。

- 1) 最終処分場計画地における地下水の流れ
- 2) 瑞穂トンネルのトンネル湧水水質モニタリングへのSWING手法適用に係わる研究
- 3) ゲリラ豪雨時の斜面安定性に関する斜面表流水を考慮した計算システムの研究
- 4) 沼原ダム表面遮水壁オーバーレイモニタリング技術支援
- 5) トンネル新技術及びインフラ整備に関する指導
- 6) 無筋橋脚挙動解析に関する研究
- 7) GIMS-K 利用技術の高度化手法の検討
- 8) 近畿自動車道紀勢線江住地区他改良工事長大法面検討
- 9) 不連続変形法（DDA）を用いた石積み擁壁の安定性評価についての研究
- 10) 岩盤地下貯槽における空洞安定性・水封機能維持に関する研究指導
- 11) 道路機能保全計画策定およびMMSデータ利活用における助言
- 12) 旭川堤防点検省力化及び高度化検討業務における助言
- 13) 各種地盤でのグラウチングシステムの研究
- 14) 最終処分場計画地における地下水の流れに関する研究

3. 研究会等の後援

下記の国際シンポジウムを後援した。

EIT-JSCE Joint International Symposium on International Human Resource Development
for Disaster-Resilient Countries 2014

開催日：平成26年8月26日～27日

開催場所：タイ国、バンコク市

以上のように本年度も自主研究及び講演会等開催事業を積極的に実施するとともに公益的な受託研究活動を実施し、地球システム工学の中心的な学問分野である地質工学・探査工学・地盤工学・岩盤工学・資源エネルギー工学に関連する科学技術の発展に寄与するとともに有益な多くの成果が得られた。

[4] 財務状況

平成26年度の財務状況は別紙「平成26年度財務諸表」のとおりである。

以上